

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
ブ11、265	『夏祭浪花鑑』初演番付 太夫・三味線	資料					①延享2年7月 ③西尾市立図書館岩瀬文庫蔵
ブ11	『夏祭浪花鑑』初演番付 人形	資料					①延享2年7月 ③『日本名著全集江戸文芸之部』第7巻浄瑠璃名作集・下 (昭和4年2月・日本名著全集刊行会)に所収
265	『夏祭浪花鑑』初演番付 人形	資料					①延享2年7月 ③西尾市立図書館岩瀬文庫蔵
502	『夏祭浪花鑑』浄瑠璃絵尽	資料					①延享2年7月 ③慶應義塾図書館蔵
	愛＝(にんべんに受)若名歌勝 開・双蝶々曲輪日記・夏宗難波 鑑・敵討樓之錦	評判 記			古今/評判 儀多百轟頂		①安永6年6月 ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃(昭和50年 10月・三一書房・芸能史研究会＝編)等に所収
177、461	延享二年条	資料			浄瑠璃譜		①寛政年間の写本 ④不明 ③活字本「燕石十種第三輯」「聲曲自在」「温和叢書第 四巻」
	*氏大夫(豊竹)	評判 記			義太夫執心録		③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃(昭和50年 10月・三一書房・芸能史研究会＝編)等に所収
	夏祭浪花鑑 六ツ目 三ぶ内の段	注釈	蓼沼祐太郎・山 沢簡＝編		義太夫難句詳解	前編	①明治37年2月 ④田沼書店
8、127、 177、502	人形の「夏祭」(紋十郎が「義 平次」の型)	演出	森ほのほ	《1》桐竹紋十 郎	(第1次)歌舞伎	第109号	①明治42年8月 ④歌舞伎発行所 ③明治42年6月御霊文楽座所演、《1》桐竹紋十郎の義 平次の型
265、446	文楽座七月興行	劇評			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第78号	①明治42年8月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③明治42年6月御霊文楽座所演
カ192、340	丸本としての夏祭	批評	岡本綺堂		演芸画報	第4年 第9号	①大正6年9月 ④演芸倶楽部 ③特集〈『夏祭浪花鑑』の研究〉
	団七の異なる点	参考 芸談		《2》実川延若			
カ192	夏祭の色	参考	岡田八千代				
	義平次の仕処	参考 芸談		《2》市川段四 郎			
	『夏祭浪花鑑』の価値	評論	小山内薫				
	夏祭に現はれた大阪	考証	高安月郊				

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	浄瑠璃と操り芝居 第九章 義太夫節浄瑠璃の興衰 昌隆時代の四十年 * 『夏祭浪花鑑』に文三郎の凝 らした工夫	芸談	秋山木芳（清） 近世文芸研究叢 書刊行会＝編		義太夫大鑑 近世文芸研究叢書 第二期芸 能篇23 浄瑠璃3	上巻	①大正6年12月 ④満州日日新聞社 ①平成9年8月 ④クレス出版 ③秋山木芳『義太夫大鑑』を収録
	夏狂言十種 『夏祭浪花鑑』（団七九郎兵 衛）	解説	清見睦郎		演芸画報	第18年 第6号	①大正13年6月 ④演芸画報社
	作者の下司智慧 『夏祭』の景と人 夏祭浪花鑑（院本） 原作の夏まつり 団七九郎兵衛 釣船三婦	考察 本文 解説 参考 芸談	山口剛 高安月郊 大西利夫	《1》中村吉右 衛門 《7》市川中車	演芸画報	第18年 第9号	①大正13年9月 ④演芸画報社 ③特集〈『夏祭浪花鑑』の研究〉 ③「住吉」「三婦内」（部分）
	尾上菊五郎夏祭泥仕合の見得八 種	参考 写真		《6》尾上菊五 郎	演芸画報	第21年 第9号	①昭和2年9月 ④演芸画報社
560	夏場の人形芝居一若手の文楽座一	劇評	石割松太郎		演芸月刊	第15号	①昭和5年8月 ④演芸月刊社 ③昭和5年8月四ツ橋文楽座所演
502	八月の文楽感	劇評	黒頭巾		浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第294号	①昭和5年8月力 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和5年8月四ツ橋文楽座所演
502	若手の文楽座						
502	汗の美学・血の美学	劇評	武智鐵二		朝日座プログラム 定本・武智歌舞伎		①昭和53年7月 ④文楽協会 ③昭和5年8月四ツ橋文楽座所演 ③文楽舞踊 ④三一書房
	第四部 新聞劇評抜粋 帝劇文楽第五回	劇評	三宅周太郎		演劇巡礼		①昭和10年5月 ④中央公論社 ③昭和6年9月東京帝国劇場所演
	『夏祭』の歴史的価値とその芝 居味	考証	長崎むらんど		演芸画報	第27年 第7・8号	①昭和8年7・8月 ④演芸画報社
265	浄るりの「形式」と浄るりの 「風」 * 「夏祭浪花鑑」の一例一その 五段組織一玉島の段の異例	解説	石割松太郎		近世演劇雑考		①昭和9年9月 ④岡倉書房

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	第一編 芸の生涯 四、稲荷座時代 * 帯屋の繁太夫節	芸談	木谷正之助（蓬吟）		五世弥太夫 芸の六十年		①昭和9年10月 ④私家版 ③「三婦内」について（明治28年6月に語ったが、世話語りの名人の直伝だと）
	第二編 人物と芸格 一、弥太夫の人と芸と 一八、恩師の面影			竹本末虎女			③「泥場」の稽古
	人形の事ぬき書	演出			浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第335号	①昭和9年10月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社
502	団七九郎兵衛/釣船三婦/一寸徳兵衛夏祭浪花鑑	解説	樋口慶千代		評/釈江戸文学叢書	第4巻 傑作浄瑠璃集下（隆盛時代）	①昭和10年12月 ④大日本雄弁会講談社 ③語釈・節章と解題・作者・出处・影響・登場人物の主な者・梗概・追考等掲載 ①昭和45年9月（再版） ④講談社
	文楽座七月を聴く	劇評	鬼面山		浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第351号	①昭和11年8月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和11年7月四ツ橋文楽座所演
446、502	三、彦六座時代 * 辰五郎さんの団七	芸談	鴻池幸武＝編	《1》吉田栄三	吉田栄三自伝		①昭和13年11月 ④相模書房 ③昭和23年5月武智鐵二の序等を加え和敬書店より再版。明治22年6月彦六座公演 ③初役の義平次（明治33年6月明楽座）
502	八、借金の為明楽座へ * 義平次						③明治42年6月御霊文楽座公演、初役の九郎兵衛
8、127、177、502	十、松竹さんになってから * 烈しい「泥場」						
	夏祭雑感	鑑賞	内田富太郎		浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第390号	①昭和15年6月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社
	「夏祭」狂言問答	解説	江戸老人		演芸画報	第34年 第7号	①昭和15年7月 ④演芸画報社
446	文楽納涼興行評	劇評	鴻池幸武		浪花/名物 浄瑠璃雑誌	第392号	①昭和15年8月 ④浪花/名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和15年7月四ツ橋文楽座所演
	続夏祭雑話	鑑賞	内田富太郎				
	出雲の浄瑠璃	研究	守隨憲治		義理		①昭和16年7月 ④甲鳥書林 ③『諸事聞書往来』の吉田文三郎評
					守隨憲治著作集	第4巻	①昭和54年2月 ④笠間書院 ③『義理』『近松』他を収録

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	芸談 * 人形の魂	芸談	小倉敬二	《1》吉田栄三	文楽		①昭和17年4月 ④筑摩書房 ③光吉夏也=編、渡辺義雄=写真。《1》桐竹紋十郎の義平次で団七九郎兵衛を勤めた話
	鶴沢叶・聞書 * 法善寺の津太夫さん	芸談	茶谷半次郎	《4》鶴沢叶 (《2》鶴沢清八)	聞書 芸と文学  文楽聞書		①昭和17年6月 ④全国書房 ③得意な演目 ①昭和21年5月 ④全国書房
	第二章 戯曲形態論 二 操浄瑠璃系の戯曲形態 (七) 合作時代の戯曲形態 〔B〕世話物系の代表作1「夏祭浪花鑑」の形態	研究	中村吉蔵		日本戯曲技巧論		①昭和17年7月 ④中央公論社
	第三章 戯曲構成論 一 操浄瑠璃系の戯曲構成 (二) 世話物系の戯曲構成 2 合作時代の代表作「夏祭浪花鑑」の構成						
	第四章 劇的局面論 二 世話物系の局面 (三) 俠客物の局面 〔A〕操浄瑠璃系の俠客物 2 「夏祭浪花鑑」の局面						
	第六章 措辞論 一 操浄瑠璃系の文体 (二) 合作物の文体に就いて 5 「夏祭浪花鑑」の措辞の一考察						
	6 道行「妹背の走書」の文体						
560	近松以後名作解題 団七九郎兵衛/釣船三婦/一寸徳兵衛夏祭浪花鑑	解説	黒木勘蔵		近松以後		①昭和17年9月 ④大東出版社 ③大東名著選42
	出勤のおぼえ	芸談	鴻池幸武	《1》鶴沢道八	道八芸談		①昭和19年1月 ④私家版 ③昭和62年11月ペリかん社より復刊。明治18年7月彦六座の「舅殺し」のメリヤス

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	カシラ「団七」に就て（三段目『鮎屋』内）	解説	山口廣一		文楽の鑑賞		①昭和19年1月 ④畝傍書房 ③昭和25年4月雪月花書房より再版
	上の巻『吃又』 *テン、テンとテテテン	芸談		《6》鶴沢友次郎			③「団七」という三味線の手について
	人形 人形の構造 頭のいろいろ *団七	芸談	《2》桐竹紋十郎		文楽の人形と三味線		①昭和19年10月 ④文楽研究会 ③団七の頭
	人形 人形の構造 人形遣の名人 *吉田文三郎						
	苦闘時代を語る（6） 澤の席から文楽まで	芸談	《1》吉田栄三		演劇界	第3年 第1号	①昭和20年1月 ④日本演劇社 ③明治42年6月東京三越劇場所演
	夏祭浪花鑑	史跡	鷺谷禰風		戯曲の大阪		①昭和21年9月 ④大阪新聞社
	盆替りの文楽座	劇評	大西重孝		観照	第2号	①昭和21年9月 ④観照社 ③昭和21年9月四ツ橋文楽座所演（短評）
265、340	団七考	演出	齋藤清二郎		文楽	第2巻 第2号	①昭和22年1月 ④誠光社
	おさんの涙	随筆	森田たま				
	歌舞伎文楽夏の趣向競べ 文楽 夏狂言の数種	解説	佐野清三		幕間	第2巻 第8号	①昭和22年8月 ④和敬書店
461	夏祭の性格	研究	守隨憲治		幕間	第2巻 第9号	①昭和22年9月 ④和敬書店 ③夏祭特輯号
265、340	「夏祭」に関する常識	鑑賞	山本修二				
	団七をつとめて	参考 芸談		《4》片岡我當 （《13》片岡仁 左衛門）			
8、127、 177、265、 カ419、502	栄三師匠の団七	芸談	吉田栄三郎				③《1》吉田栄三について
	八月の文楽座 大隅の「志渡寺」など	劇評	白方健太郎				③昭和22年8月四ツ橋文楽座所演
	夏祭浪花鑑 東西四座同人合評	劇評	林秀雄・多田嘉七・武智鉄二・沼艸雨・大西重孝		観照	第11号	①昭和22年9月 ④観照社 ③昭和22年8月四ツ橋文楽座所演（短評）

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
446	下剋上の「夏祭」	劇評	山口廣一		文楽	第2巻 第8号	①昭和22年10月 ④誠光社 ③昭和22年8月四ツ橋文楽座所演
	文楽鑑賞読本第9章 文三郎の工夫	演出	大西利夫		文楽	第3巻 第1号	①昭和23年1月 ④誠光社 ③衣裳の意匠
	歌舞伎鑑賞 夏祭浪花鑑	参考 鑑賞	渥美清太郎		演劇界	第7巻 第8号	①昭和24年8月 ④日本演劇社
カ192、 カ419	秀山夜話 一自伝その十五一	参考 芸談	川尻清潭	《1》中村吉右 衛門	幕間	第4巻 第9号	①昭和24年9月 ④和敬書店
カ192、 カ419	秀山夜話 一自伝その十六一	参考 芸談	川尻清潭	《1》中村吉右 衛門	幕間	第4巻 第10号	①昭和24年10月 ④和敬書店
8、127、 177、560	文楽の夏狂言	演出	吉永孝雄		幕間	第5巻 第8号	①昭和25年8月 ④和敬書店
8	夏祭浪花鑑	解説 梗概	守隨憲治		増補／改訂日本文学大辞典	第5巻	①昭和26年1月 ④新潮社 ③藤村作＝編纂
	人形芝居の「殺し場」	演出	大西重孝		幕間	第6巻 第7号	①昭和26年7月 ④幕間和敬書店
	三越“文楽”から	劇評	安藤鶴夫		演劇界	第9巻 第7号	①昭和26年7月 ④演劇新社 ③昭和26年6月東京三越劇場所演
	「夏祭」の団七	参考 芸談	《1》中村吉右 衛門		中村吉右衛門自伝		①昭和26年7月 ④啓明社
	文楽人形用語（十一） * 団七走り・韋駄天	演出	大西重孝		舞台展望	第14巻	①昭和27年8月 ④舞台すがた社
8、127	韋駄天・団七走り				文楽		①昭和34年3月 ④講談社
	2 人形の基本 人形の型（演技） * 韋駄天				文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽人形用語（十七） * ツギ足・マキ足・棒足・ガツシ	演出	大西重孝		舞台展望	第17巻	①昭和28年4月 ④舞台展望社
	ツギ足・マキ足・棒足・ガツシ				文楽		①昭和34年3月 ④講談社
	2 人形の基本 人形の型（演技） * ガツシ				文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社
	争う文楽	劇評	沼艸雨		演劇評論	第2巻	①昭和28年10月 ④演劇評論社 ③昭和28年8月中座所演（短評）
	舞台鑑賞手引 「夏祭」雑談	鑑賞	加賀山直三		幕間	第10巻 第8号	①昭和30年8月 ④幕間和敬書店
	団七首から文七首へー七月興行 の楽しさー	鑑賞	吉永孝雄		道頓堀文楽座プログラム		①昭和32年7月 ④道頓堀文楽座
265	綱太夫で光る夏祭の泥場と平仮 名の逆櫓	劇評	吉永孝雄		幕間	第12巻 第8号	①昭和32年8月 ④幕間和敬書店 ③昭和32年7月道頓堀文楽座所演
	Ⅱ 劇評家と文楽の人々 二世桐竹紋十郎 * 泥場の栄三				吉永孝雄の私説昭和の文楽		①平成7年5月 ④和泉書院 ③近松研究所叢書2
	殺し	演出	大西重孝・吉永 孝雄＝解説/三 村幸一＝写真		文楽		①昭和34年3月 ④講談社 ③人形浄瑠璃の趣向
	関西の焦点 活気のある七月の関西	劇評	北岸佑吉		演劇界	第17巻 第8号	①昭和34年8月 ④演劇出版社 ③昭和34年7月道頓堀文楽座所演（短評）
446	五十年ぶりの「夏祭」の通しと 「天網島」	劇評	吉永孝雄		幕間	第14巻 第8号	①昭和34年8月 ④和敬書店 ③昭和34年7月道頓堀文楽座所演
127、177、 カ192、 ブ11、 265、340	夏祭浪花鑑	解説 梗概	林京平		演劇百科大事典	第4巻	①昭和36年3月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編著代表
					総合日本戯曲事典		①昭和39年2月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編纂

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽教室9 人形のかしら	解説	大西重孝		道頓堀文楽座プログラム		①昭和36年7月 ④道頓堀文楽座 ③団七の首と徳兵衛の首
	文楽と初代栄三 * 文楽のかしら				文楽人形の演出		①昭和49年8月 ④大西重孝著作刊行会
	関西の焦点 三部制の文楽・コマと見世物	劇評	北岸佑吉		演劇界	第19巻 第8号	①昭和36年8月 ④演劇出版社 ③昭和36年7月道頓堀文楽座所演（短評）
	新生・文楽	劇評	沼艸雨		幕間	第16巻 第8号	①昭和36年8月 ④幕間和敬書店 ③昭和36年7月道頓堀文楽座所演（短評）
461	でんでん虫五十年 * 四ツ橋初期	芸談	《8》竹本綱大 夫		でんでん虫		①昭和39年6月 ④布井書房 ③昭和5年8月四ツ橋文楽座公演について
	「夏祭」雑話	鑑賞	岡田聰		朝日座プログラム		①昭和39年7月 ④文楽協会 ③韋駄天
	素朴な象徴の芸	演出	大西重孝				
461	関西の焦点 文楽の若手登用	劇評	北岸佑吉		演劇界	第22巻 第8号	①昭和39年8月 ④演劇出版社 ③昭和39年7月朝日座所演
カ419	歌舞伎狂言鑑賞の手引8 夏祭浪花鑑	参考 鑑賞	松井俊諭		演劇界	第23巻 第8号	①昭和40年8月 ④演劇出版社
	桐竹紋十郎 第一章 4	芸談	安藤鶴夫	《2》桐竹紋十 郎	文楽◎桐竹紋十郎		①昭和42年1月 ④求龍堂（限定版） ③中西敬二郎「二世桐竹紋十郎年譜」を収録。吉田栄三 初役の団七と《1》桐竹紋十郎の義平次
					安藤鶴夫作品集	Ⅲ芸	①昭和45年12月 ④朝日新聞社 ③平成9年3月復刻版。『文楽 日本の伝統』『古鞆芸談』 『桐竹紋十郎』『芸と人』『芸について』他を収録
461					文楽 芸と人		①昭和55年1月 ④朝日新聞社 ③朝日選書150。『文楽 日本の伝統』『古鞆芸談』『桐 竹紋十郎』を収録
	人形芝居の黄金時代を作った二 名作	鑑賞	吉永孝雄		中日劇場プログラム		①昭和42年5月 ④中日劇場
	文楽の首シリーズ3	演出	斉藤清二郎		国立劇場文楽公演解説書	第3回	①昭和42年6月 ④国立劇場事業部
	文楽講座・3 世話浄るり	鑑賞	祐田善雄				



上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽二度目の出開帳	劇評	浜村米蔵		演劇界	第25巻 第8号	①昭和42年8月 ④演劇出版社 ③昭和42年6月東京国立劇場小劇場所演（短評）
	文楽の芸術 * 夏場の人形浄るり	演出	大西重孝		文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社 ③昭和5年8月四ツ橋文楽座所演
	* かしらの性根						③ 団七と徳兵衛の首
177、560	* 人形の殺し場						
	七月の上演狂言について コトバの分解と人形の直情性	鑑賞	山口廣一		朝日座プログラム		①昭和43年7月 ④文楽協会
	関西劇場街探点 文楽と若松会	劇評	北岸佑吉		演劇界	第26巻 第9号	①昭和43年9月 ④演劇出版社 ③昭和43年7～8月朝日座所演
カ419	夏祭浪花鑑	参考 解説	戸板康二		名作歌舞伎全集	第7巻	①昭和44年3月 ④東京創元新社
	夏祭	参考 鑑賞	沼艸雨		演劇界	第27巻 第15号	①昭和44年12月 ④演劇出版社 ③臨時増刊「歌舞伎狂言の鑑賞3」
	“納涼文楽”をみる 企画は当 たっても	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き— 劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和46年7月朝日座所演。初出＝「読売新聞」昭和46年 7月26日
	第十三の巻	芸談	井野辺清・黒井 乙也＝校註		染太夫一代記		①昭和48年1月 ④青蛙房 ③青蛙選書41。《6》竹本染大夫、天保11～12年の記事
	第二十の巻						③《6》染大夫、弘化1～3年の記事
	第二十一の巻						③《6》染大夫、弘化2～4年の記事
	第二十五の巻						③《6》染大夫、嘉永2年の記事
177、 カ419	夏祭浪花鑑再見	研究	小池章太郎		季刊雑誌歌舞伎	21	①昭和48年7月 ④松竹株式会社演劇部 ③特集〈殺し殺される美〉
	殺し場の美と本質		河竹登志夫				
	殺し場の絵		林京平				
	”殺し場”に詩はありや？ —その耽美の本質について—		落合清彦				
	文楽の風土11 「夏祭浪花鑑」長町裏舅殺し	鑑賞	吉永孝雄		大阪	90	①昭和48年9月 ④大阪府観光連盟 ③『吉永孝雄の私説昭和の文楽』に拠る

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	六章 恍惚の世界 世話物 夏祭浪花鑑	解説	吉永孝雄		カラー文楽の魅力		①昭和49年1月 ④淡交社 ③三村幸一＝写真
	夏祭浪花鑑	鑑賞	大鋸時生・三村 幸一		文楽一鑑賞のために一		①昭和50年10月 ④保育社 ③カラーボックス338
	桐竹勘十郎 ほめてくれない師匠	芸談	吉田留三郎	《2》桐竹勘十 郎	人生万ざい		①昭和50年11月 ④朝日新聞社 ③むずかしい団七の足
	夏祭（夏祭浪花鑑）	参考 鑑賞	野口達二		季刊雑誌歌舞伎	別冊5号	①昭和50年12月 ④松竹株式会社演劇部 ③歌舞伎名作鑑賞第1集
	優れた技巧、重厚な舞台、越路 大夫・弥七の「葛の葉」	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き一 劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和51年5月東京国立劇場小劇場所演（短評）。初出＝ 「読売新聞」昭和51年5月24日
	文楽名作鑑賞 夏祭浪花鑑	解説 梗概	山田庄一		文楽入門		①昭和52年6月 ④文研出版 ③文研の芸能鑑賞シリーズ
					文楽		①平成2年1月 ④ぎょうせい ③伝統芸能シリーズ3。『文楽入門』の改訂版
	この公演のゆかりの地	史跡	牧村史陽		朝日座プログラム		①昭和53年7月 ④文楽協会
	この公演に登場する人物の紹介	解説	吉永孝雄				
	関西劇信 新演技座の発足	劇評	大鋸時生		演劇界	第36巻 第8号	①昭和53年8月 ④演劇出版社 ③昭和53年7月朝日座所演（一言）
ブ11	『夏祭浪花鑑』初演時の資料	資料			義太夫年表 近世篇	第1巻	①昭和54年11月 ④八木書店
	人形の型⑩「韋駄天」	演出	(I)		国立劇場文楽公演解説書	第53回	①昭和55年5月 ④国立劇場事業部
340	殺しの美学	鑑賞	土田衛				
	鶴沢重造引退の花道飾る	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き一 劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和55年5月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新 聞」昭和55年5月14日
	季節感のある舞台	劇評	杉本嘉代子		演劇界	第38巻 第6号	①昭和55年6月 ④演劇出版社 ③昭和55年5月東京国立劇場小劇場所演

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽劇信 勘十郎健在の証明	劇評	桜井弘		演劇界	第40巻 第10号	①昭和57年9月 ④演劇出版社 ③昭和57年7月朝日座所演
	八二年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八三年 版	①昭和58年5月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和57年7月朝日座所演
	一九八二年の文楽				文楽 二十世紀後期の輝き— 劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	「夏祭」の面白さ	鑑賞	大鋸時生		中日劇場プログラム		①昭和57年7月 ④中日劇場
	夏祭浪花鑑	解説	鳥居フミ子		研究資料日本古典文学	第10巻 劇文学	①昭和58年12月 ④明治書院 ③「概括」「成立および概観」「梗概」「意義」「諸 本・翻刻」「参考文献」より成る
	夏祭浪花鑑	芸談	《13》片岡仁左 衛門		夏祭と伊勢音頭		①昭和58年12月 ④向陽書房
	夏祭浪花鑑	解説 梗概	内山美樹子		日本古典文学大辞典	第4巻	①昭和59年7月 ④岩波書店
	桐竹勘十郎 この一年 * 団七九郎兵衛	芸談		《2》桐竹勘十 郎	文楽	第2号	①昭和59年2月 ④「文楽」編集部 ③昭和58年NHKテレビ放送で遣った団七九郎兵衛につ いて
	肩衣と衣裳	芸談	田結荘哲治	《4》竹本津大 夫	文楽三代 竹本津大夫間書		①昭和59年4月 ④大阪書籍 ③朝日カルチャーブックス35。泥場の肩衣
	第三部 文楽の芸—その伝承 * 人形浄瑠璃の興行 * 人形の発達	研究	高木浩志		文楽の芸		①昭和59年5月 ④東京書籍 ③日本の芸シリーズ
	第五部 文楽の芸—その表現 * 人形の表現—二代桐竹勘十郎 の話	芸談		《2》桐竹勘十 郎			③義平次・団七
	文楽小史 * 三業完成	解説	《7》竹本住大 夫・和多田勝		文楽説き語り 言うて暮して いるうちに		①昭和60年4月 ④創元社
	文楽の名作 75悪い人でも舅は親 『夏祭浪花鑑』	入門	権藤芳一		文楽の世界		①昭和60年6月 ④講談社

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	夏祭りは大阪の華	鑑賞	中村浩		国立文楽劇場文楽公演解説書	第9回	①昭和60年7月 ④国立劇場
	鑑賞ガイド		(F)				
	夏祭浪花鑑と台昇	参考	宮本又次				
	はんなりとした浪花情緒の中 で、俠客の義理人情を… 「夏祭」を語る竹本津大夫	芸談	川崎一朗	《4》竹本津大 夫			
	「ゆかりの地」あれこれ	史跡	田結荘哲治				
ブ11	『夏祭浪花鑑』第五（道行）第 八（団七内）本文	資料			国立文楽劇場上演資料集	11	①昭和60年7月 ④国立文楽劇場調査養成課
	文楽の劇評 俠客の世界	劇評	富岡泰		演劇界	第43巻 第10号	①昭和60年9月 ④演劇出版社 ③昭和60年7月国立文楽劇場所演
	八五年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八六年 版	①昭和61年5月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和60年7月国立文楽劇場所演
	一九八五年の文楽				文楽 二十世紀後期の輝き— 劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	吉田玉男この一年 * 団七	芸談	《1》吉田玉男		文楽	第4号	①昭和61年2月 ④「文楽」編集部 ③昭和60年7月国立文楽劇場所演
	こんな文楽いかがですか ハワ イ公演報告記	記録	《5》豊竹呂大 夫				③昭和60年7月ハワイ公演（泥場で義平次の簀助が太鼓を 打ったこと）
	第八章 太夫様式 四節 豊竹筑前少掾 六節 竹本染太夫	研究	横道萬里雄・井 野辺潔他 茂手木潔子		義太夫節の様式展開		①昭和61年11月 ④アカデミア・ミュージック ③井野辺潔・横道萬里雄・他＝著
	無頼から侠へ—近世大坂男だて 戯曲の展開	参考	松崎仁		文学	第55巻 第4号	①昭和62年4月 ④岩波書店 ③特集〈歌舞伎〉
	第一部 歌舞伎の諸相 * 無頼から侠へ—近世大坂男だ て戯曲の展開				歌舞伎 浄瑠璃 ことば		①平成6年6月 ④八木書店
	弔文・桐竹勤十郎に	随筆	和田勉		国立文楽劇場文楽公演解説書	第19回	①昭和62年7月 ④国立劇場 ③昭和32年NHKスタジオ放送の思い出と昭和58年4月10日 放送の収録の思い出
	団七を父（故勤十郎）と遺って いて、幸せやと思いましたね… …吉田簀太郎	芸談	川崎一朗	吉田簀太郎 （《3》桐竹勤 十郎）			

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	桐竹勘十郎追善の文楽	劇評	田村耕介		演劇界	第45巻 第10号	①昭和62年8月 ④演劇出版社 ③昭和62年7月国立文楽劇場所演（一言）
265	初演時の主な演者	参考	石割松太郎・秋 葉芳美		国立劇場上演資料集	265	①昭和62年9月 ④国立劇場調査養成部芸能調査室 ③『日本人名大事典』第4巻・第6巻（平凡社・昭和12年 12月・13年10月）より
265	人形一覧						③昭和55年5月東京国立劇場小劇場所演時
	越路の「酒屋」、玉男の盛綱	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き— 劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和62年9月東京国立劇場小劇場所演（短評）。初出＝ 「読売新聞」昭和62年9月17日
	『酒屋』と盛綱と	劇評	富岡泰		演劇界	第45巻 第13号	①昭和62年11月 ④演劇出版社 ③昭和62年9月東京国立劇場小劇場所演
	八七年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八八年 版	①昭和63年5月 ④早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 ③昭和62年7月国立文楽劇場・9月東京国立劇場小劇場所 演
	一九八七年の文楽				文楽 二十世紀後期の輝き— 劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	皿音で楽しむ名曲の数々 10下座囃子の効果	鑑賞	茂手木潔子		文楽 声と音と響き		①昭和63年1月 ④音楽之友社
461	夏祭浪花鑑	解説 梗概	灰田由記子・吉 永孝雄		浄瑠璃作品要説	<5>西沢一 風・並木宗 輔篇	①昭和63年3月 ④国立劇場
	並木宗輔	解説	吉永孝雄				
	第一話 文楽の太夫 * 太夫の衣裳 * 太夫の心構え	芸談	《5》竹本織大 夫（《9》竹本 源太夫） 高木浩志		織大夫夜話—文楽へのいざな い		①昭和63年7月 ④東方出版 ③「泥場」の肩衣、凝った太夫は人形と同じ団七縞の肩 衣にすることがある。昭和33年夏京都・南座で「泥場」 の団七を大声でやっていたら顎捻挫した
	第二話 入門まで * 源大夫は名人やけど						③《7》竹本源太夫が無本で「泥場」を語ったこと
	第七話 思い出の役々 * 代役						③「泥場」の団七

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	再説『八犬伝』と演劇	研究	河合眞澄		読本研究	第3輯	①平成1年6月 ④広島文教女子大学研究出版委員会
	第三部『八犬伝』と演劇 第十五章『八犬伝』と演劇 (二) 一『夏祭浪花鑑』				近世文学の交流—演劇と小説—		①平成12年7月 ④清文堂出版
	夏祭浪花鑑	漫画	二階堂茂＝戯画		国立文楽劇場文楽鑑賞教室公演解説書	第6回	①平成1年6月 ④国立劇場
	『野崎』と『夏祭』で鑑賞教室	劇評	田結莊哲治		演劇界	第47巻 第8号	①平成1年7月 ④演劇出版社 ③平成1年6月国立文楽劇場所演
	道行の形式と歴史的展開	研究	井野辺潔		大阪音楽大学研究紀要	第28号	①平成1年12月 ④大阪音楽大学 ③詞からはじまる例外的な道行の例
					浄瑠璃史考説		①平成3年2月 ④風間書房
	「夏祭浪花鑑」をあるく 大阪文化を救え?!	史跡	坂上理恵・樋口 大祐		SUGURE者		①平成3年8月 ④SUGURE者編集部
	第二章 襲名 *会者定離	芸談	《3》吉田簑助		頭巾かぶって五十年		①平成3年8月 ④淡交社
	上方狂言鑑賞十二月 八月 夏祭浪花鑑	参考 鑑賞	向井芳樹		演劇界	第50巻 第9号	①平成4年8月 ④演劇出版社
	文楽人形の仕組と表情 一 人形の構造	芸談	森西真弓＝構 成・文	《1》吉田玉男	別冊太陽 日本のこころ	No.80 文楽	①平成5年1月 ④平凡社 ③団七九郎兵衛
	文楽名作案内 夏祭浪花鑑	解説	井上勝志				③阪口弘之＝編
	夏祭	鑑賞	児玉竜一		カブキ101物語		①平成5年7月 ④新書館 ③渡辺保＝編
	夏まつり 昔と今と虚と実と	鑑賞	東使英夫		国立文楽劇場文楽公演解説書	第51回	①平成5年7月 ④日本芸術文化振興会
	ロマンを追って—豊竹呂大夫	芸談	森西真弓	《5》豊竹呂大 夫			
	達者な伊達・文雀の義平次	劇評	田結莊哲治		演劇界	第51巻 第11号	①平成5年9月 ④演劇出版社 ③平成5年7～8月国立文楽劇場所演
	視線に深い愛情	劇評	宮辻政夫		上方芸能	117号	①平成6年3月 ④『上方芸能』編集部 ③平成5年7～8月国立文楽劇場所演

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	「人形芝居」を超えて * 位牌か骸骨か	芸談	内山美樹子	《1》吉田玉男	文楽談義一語る・弾く・遣う		①平成5年8月 ④創元社 ③井野辺潔＝監修、義太夫研究会＝編著。「泥場」の演出
	もっとおもしろい文楽を * 太夫に冒険してほしい		横山正＝聞き手 /蒲生郷昭＝文章化	《2》桐竹勘十郎			③鏡太夫の「泥場」の義平次
	文楽のかしらシリーズ⑩ 「若男」「虎王」	演出	吉田文雀＝解説 /飯村隆＝撮影		国立劇場文楽公演解説書	第104回	①平成5年9月 ④日本芸術文化振興会 ③三河屋義平次の首
	“殺し”の二重奏－「夏祭」と 「伊勢音頭」－	鑑賞	落合清彦				
560	裏街道の人生劇に手ごたえ	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き－ 劇評と文楽考－		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③平成5年9月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新聞」平成5年9月8日
	残暑見舞いの文楽公演	劇評	富岡泰		演劇界	第51巻 第12号	①平成5年10月 ④演劇出版社 ③平成5年9月東京国立劇場小劇場所演
	劇評 夏祭の競演	劇評	近藤瑞男		テアトロ	609号	①平成5年11月 ④テアトロ ③平成5年9月東京国立劇場小劇場所演
	見取り公演を考える	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	13	①平成6年6月 ④リポレポート ③歌舞伎学会＝編。平成5年7～8月国立文楽劇場・9月東京国立劇場小劇場所演
	お辰「夏祭浪花鑑」	芸談	《3》吉田簑助・山川静夫		文楽の女 吉田簑助の世界		①平成6年3月 ④淡交社 ③青木信二＝写真。平成28年8月新書版刊
	第二部近世演劇の周辺 * 雁金五人男の虚と実 * 無頼から侠へ－近世大坂男だて 戯曲の展開	参考	松崎仁		歌舞伎 浄瑠璃 ことば		①平成6年6月 ④演劇出版社 ③「十夜」について
	第三部 名作の鑑賞 世話物 夏祭浪花鑑	解説	藤田洋・森西真弓		文楽ハンドブック		①平成6年12月 ④三省堂 ③平成15年3月改定版、平成23年2月第3版

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	太夫の表現	解説	宮辻政夫		文楽入門 鑑賞へのいざない		①平成7年6月 ④淡交社 ③淡交ムック。水落潔＝指導、青木信二＝写真。
	文楽見どころ聞きどころ * 夏祭浪花鑑	入門	廓正子				
	人形遣いと人形 * 人形の特殊動作	解説	山田庄一				③団七走りと韋駄天
	文楽衣裳の研究ー夏祭浪花鑑ー	演出	清水久美子		日本服飾学会誌	第15号	①平成8年5月 ④日本服飾学会 ③平成5年8月国立文楽劇場・平成7年6月京都南座所演
	淀川長治の文楽十選 夏祭浪花鑑	鑑賞	淀川長治		広告批評	No.205	①平成9年5月 ④マドラ出版 ③特集〈淀川長治と吉田玉男の文楽入門〉
	住吉鳥居前（『夏祭浪花鑑』）	考証	川寄一郎		国立文楽劇場文楽公演解説書	第67回	①平成9年7月 ④日本芸術文化振興会
	竹沢団六にきく	芸談	森西真弓	《8》竹沢団六 （《7》鶴沢寛治）			
	楽しめた呂・相生の「長町裏」	劇評	田結莊哲治		演劇界	第55巻 第12号	①平成9年10月 ④演劇出版社 ③平成9年7～8月国立文楽劇場所演
	宝暦歌舞伎＜上方＞ (2) 夏祭浪花鑑	研究	水田かや乃		岩波講座 歌舞伎・文楽	第2巻 歌舞伎の歴	①平成9年10月 ④岩波書店
	第二部 人形浄瑠璃の黄金時代 Ⅲ 並木宗輔 5 『夏祭浪花鑑』の周辺	研究	内山美樹子		岩波講座 歌舞伎・文楽	第9巻 黄金時代の 浄瑠璃とそ	①平成10年3月 ④岩波書店
	文楽よもやま話 夏祭浪花鑑	鑑賞	高木浩志＝文/ 榎その＝漫画		地方公演パンフレット		①平成10年9月 ④文楽協会 ③平成11年2～3月地方公演パンフレットにも転載
	『夏祭浪花鑑』をめぐってー実 説・浄瑠璃・歌舞伎そして期 待ー	考証	松平進		国立劇場歌舞伎公演解説書	第219回	①平成12年4月 ④日本芸術文化振興会
	高津宮夏祭の今昔	参考	小谷真功		国立文楽劇場文楽公演解説書	第83回	①平成13年7月 ④日本芸術文化振興会
	『勸進帳』『夏祭』に花道を 使って	劇評	田結莊哲治		演劇界	第59巻 第12号	①平成13年9月（10月号） ④演劇出版社 ③平成13年7～8月国立文楽劇場所演
	夏は『夏祭』一疾走する団七	劇評	片山剛		上方芸能	142号	①平成13年12月 ④『上方芸能』編集部 ③平成13年7～8月国立文楽劇場所演



上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	二〇〇一年下半期の文楽	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	29	①平成14年6月 ④歌舞伎学会 ③平成13年7～8月国立文楽劇場所演
	文楽鑑賞ベストテン 其三●ステップアップ文楽 ー『夏祭浪花鑑』	鑑賞	田中マリコ		文楽に連れてって！		①平成13年11月 ④青弓社
	やっぱり世話物のほうが好きで すね	芸談	溝上文雄＝聞き 手	《5》竹本伊達 大夫	文楽いこ会	7号	①平成13年11月 ④鈴木ななえ
	団七と義平次【夏祭浪花鑑】	芸談	《1》吉田玉 男・山川静夫		文楽の男 吉田玉男の世界		①平成14年1月 ④淡交社 ③青木信二＝写真。平成28年8月『文楽の男 初世吉田玉 男の世界』と改題して新書版刊
446	玉男芸話16	芸談	森西真弓	《1》吉田玉男	国立劇場上演資料集	446	①平成14年9月 ④日本芸術文化振興会
560	夏祭浪花鑑				吉田玉男文楽藝話		
	『心中天網島』の魅力	劇評	福本和生		演劇界	第60巻 第13号	①平成14年10月（11月号） ④演劇出版社 ③平成14年9月東京国立劇場小劇場所演
	二〇〇二年下半期の文楽	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	31	①平成15年8月 ④歌舞伎学会 ③平成14年9月東京国立劇場小劇場所演
	これを見よ！文楽演目厳選10 夏祭浪花鑑	鑑賞	七海友信		歌舞伎・文楽の見方が面白い ほどわかる本		①平成15年4月 ④中経出版
	文楽まめ知識⑫ 人形の型	参考	高木浩志		国立劇場文楽公演解説書	第143回	①平成15年5月 ④日本芸術文化振興会
					文楽に親しむ		
	第一部 「上方」とその特質 第1章 三都比較に見る近世大阪 の特質 * 男を立てる	考察	森西真弓		上方芸能の魅惑一鷹治郎・玉 男・千作・米朝の至芸		①平成15年7月 ④日本放送出版協会

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽を観に行く前に 初めて観るならこの演目がおす すめ8 夏祭浪花鑑	鑑賞	松平盟子		劇場に行こう 文楽にアクセ ス		①平成15年10月 ④淡交社
	劇場必携演目ダイジェスト24 夏祭浪花鑑	あ らす じ					
	ベテラン・中堅たちが実力発揮	劇評	中村桂子		演劇界	第62巻 第3号	①平成16年1月（2月号） ④演劇出版社 ③平成15年12月東京国立劇場小劇場所演
	名作紹介 夏祭浪花鑑	入門	江南真理		物語で学ぶ日本の伝統芸能	4文楽	①平成16年4月 ④くもん出版 ③平島高文＝監修
	第二章 名作ガイド 夏祭浪花鑑	鑑賞	酒井順子		豊竹咲甫大夫と文楽へ行こう		①平成16年12月 ④旬報社 ③旬報社まんぼうシリーズ。豊竹咲甫大夫（《6》竹本織 太夫）＝著
	第四章 豊竹咲甫大夫、思い入 れのある名場面 夏祭浪花鑑 長町裏の段	グラ ビア	豊竹咲甫大夫 （《6》竹本織 太夫）				
	第一章 キーワードでたどる文 楽 * 衣裳 * 襲名	鑑賞	亀岡典子		文楽ざんまい		①平成17年6月 ④淡交社 ③一寸徳兵衛の衣裳
	第二章 太夫・三味線・人形遣 い * 吉田玉男	芸談		《1》吉田玉男			③義平次
	最終章 人間の心底を描き続け る文楽の世界 * 魅力的な敵役	鑑賞					③《1》吉田玉男の義平次
	世話物 夏祭浪花鑑	解説	高木秀樹＝著/ 青木信二＝写真		あらすじで読む名作文楽50		①平成17年7月 ④世界文化社 ③ほたるの本。平成27年9月加筆再構成した新版刊
	名作文楽50 夏祭浪花鑑				文楽手帖		①平成26年8月 ④KADOKAWA ③角川ソフィア文庫。『あらすじで読む 名作文楽50』を 加筆修正のうえ再構成したもの
	〔聞き書き〕人形浄瑠璃文楽一そ の上演演目 演出 首などー吉田 玉男師と吉田文雀師に聞く 一、吉田玉男師に聞く * 首に関して	芸談	鎌倉恵子	《1》吉田玉男	伝統芸能の特殊な上演に関す る調査研究		①平成18年3月 ④（独）文化財研究所東京文化財研究所芸能部 ③芸能部プロジェクト報告書。団七の首

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽人形の衣裳—その特徴と工夫—	鑑賞	清水久美子		国立文楽劇場文楽公演解説書	第103回	①平成18年7月 ④日本芸術文化振興会
	技芸員にきく 野澤錦糸	芸談	広瀬依子＝聞き書き	《5》野沢錦糸			
	歌舞伎と競演の『夏祭』	劇評	亀岡典子		演劇界	第64巻 第13号	①平成18年9月（10月号） ④演劇出版社 ③平成18年7～8月国立文楽劇場所演
	浪の鑑、花の鑑	劇評	片山剛		上方芸能	162号	①平成18年12月 ④『上方芸能』編集部 ③平成18年7～8月国立文楽劇場所演
	二人の人間国宝 芸を語る * 竹本住大夫 鑑賞の手引き	芸談 鑑賞	高木浩志 高木浩志	《7》竹本住大夫	内子座文楽公演プログラム	第10回	①平成18年8月 ④内子座文楽公演実行委員会、内子町、内子町教育委員会
	スペクタクルについて（3） スペクタクルの中の祭り「夏祭 浪花鑑」を中心に	参考	中村啓祐		追手門学院大学文学部紀要	第42号	①平成19年3月 ④追手門学院大学文学部
	団七転生 歌舞伎と文楽の交流	参考	安富順		国立劇場文楽公演解説書	第160回	①平成19年9月 ④日本芸術文化振興会
	浄瑠璃の本いろいろ2 —「夏祭浪花鑑」と「菅原伝授 手習鑑」の絵本—		萩田清				
	玉女の菅丞相が秀逸	劇評	津田類		演劇界	第65巻 第8号	①平成19年11月 ④演劇出版社 ③平成19年9月東京国立劇場小劇場所演
	「夏祭浪花鑑・長町裏の段」に ついて	考証	成瀬國晴		国立文楽劇場文楽公演解説書	第119回	①平成22年7月 ④日本芸術文化振興会
	「夏祭浪花鑑」マップ	参考					
	技芸員にきく 桐竹勘十郎	芸談	広瀬依子＝聞き書き	《3》桐竹勘十郎			
	文楽・知識の泉⑳	鑑賞	高木浩志				
	時代物・世話物・景事物 文楽を味わう一助になれば 夏祭浪花鑑				文楽に親しむ		①平成27年4月 ④和泉書院 ③「知識の泉俠」を加筆
	疾走する団七	劇評	亀岡典子		演劇界	第68巻 第10号	①平成22年10月 ④演劇出版社 ③平成22年7～8月国立文楽劇場所演
	夏の火花、雪の宿命	劇評	森田美芽・片山剛		上方芸能	178号	①平成22年12月 ④『上方芸能』編集部 ③平成22年7～8月国立文楽劇場所演

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	平成二十二年下半期の関西公演 評	劇評	青木繁		歌舞伎 研究と批評	47	①平成24年5月 ④歌舞伎学会 ③平成22年7～8月国立文楽劇場所演
	浄瑠璃にみる対面意識の変遷— 「一分」から「顔」へ 文楽のことばの現在	研究	神田由築 内山美樹子		文学	第12巻 第2号	①平成23年3月 ④岩波書店 ③特集〈人形浄瑠璃・文楽のことばへ〉
	国立劇場の責務とは何か	劇評	富岡泰		演劇界	第70巻 第11号	①平成24年11月 ④演劇出版社 ③平成24年9月東京国立劇場小劇場所演
	技芸員にきく 竹本住大夫 作品散歩 〈夏祭浪花鑑〉	芸談 鑑賞	広瀬依子＝聞き 手 (編)	《7》竹本住大 夫	国立文楽劇場文楽公演解説書	第131回	①平成25年7月 ④日本芸術文化振興会
	咲大夫の「金殿」	劇評	宮辻政夫		演劇界	第71巻 第10号	①平成25年10月 ④演劇出版社 ③平成25年7月国立文楽劇場所演
	特別公演は目的を絞って	劇評	福本のりこ・片 山剛		上方芸能	190号	①平成25年12月 ④『上方芸能』編集部 ③平成25年7月国立文楽劇場所演
	勘十郎・玉女が解説する 私が好きな演目ベスト10 夏祭浪花鑑 団七九郎兵衛・舅 義平次	解説 芸談	《3》桐竹勘十 郎		文楽へようこそ		①平成26年4月 ④小学館 ③《3》桐竹勘十郎・吉田玉女（《2》吉田玉男）＝著
	吉田一輔さんが案内する 文楽ゆかりの名所 露天神社（曾根崎心中）	史跡	吉田一輔				
	団七九郎兵衛	芸談 グラ ビア	《3》桐竹勘十 郎/ヒロセマリ コ＝撮影		なにわの華 文楽へのいざない 人形遣い桐竹勘十郎		①平成26年5月 ④淡交社
	もう少し浄瑠璃を読もう（第9 ～11回） 浪花のヤンキーの『夏祭浪花 鑑』	鑑賞	橋本治		芸術新潮	第66巻 第1～3号	①平成27年1・2・3月 ④新潮社
	『夏祭』に沸く	劇評	宮辻政夫		演劇界	第74巻 第8号	①平成28年7月（8月号） ④演劇出版社 ③平成28年6月国立文楽劇場所演
	上方役者絵に見る彫り物	参考	北川博子		国立文楽劇場文楽公演解説書	第147回	①平成29年7月 ④日本芸術文化振興会
	大阪九十年ぶりの「義賢館」	劇評	宮辻政夫		演劇界	第75巻 第10号	①平成29年9月（10月号） ④演劇出版社 ③平成29年7～8月国立文楽劇場所演